



半田 滋の

Handa Shigeru

# 新・安全保障論

第 101 回

## 政府要職は茶坊主ばかり 危ういトランプ第2次政権

乗せを要求されることになる。

「安倍一強」といわれた当時と違って、石破茂政権は衆院で過半数を割り、政権基盤は弱い。立憲民主党が「日米同盟は基軸」と主張しているの、「野党の反対」を理由に要求はのめないと伝えても説得力に欠ける。そこで「カネは出せないから在日米軍を減らして」と逆提案してはどうだろうか。

### 撤退や移転重なる米国

それでは抑止力が低下すると心配する向きもあるだろう。しかし、過去何度も米国は撤退や移転を持ち出している。冷戦終結を受けた米軍再編の日米協議で米国が示した原案に「在日米軍と在日米空軍の両司令部を兼ねる」第5空軍のグアム移転があった。冷戦期、米国は日本に空母を主力とする第7艦隊を置き、複数の戦闘機部隊を置いたが、第5空軍の移転は、米軍による日本防衛の役割が小さくなることを意味した。

2009年、米国は青森県の三沢基地にある戦闘機部隊の全面撤

退を提案。敵レーダーを破壊する

「ワイルド・ウィーゼル(野生のイタチ)」と呼ばれる特殊な戦闘機部隊が配備されていたが、米国に戻すと主張した。

これらの提案は、日本政府の反対で立ち消えになった。実現した例もある。神奈川県のカンパ座間へは沖縄の本土復帰に伴い、第9軍団が移転してきたが、冷戦が終わり、解体された。冷戦最中の1970年代にはソ連正面の北海道千歳市から約1万2000人の米陸軍が一方的に引き揚げ、今で

は駐留の痕跡さえ残っていない。

日米安保条約は米国の対日防衛義務を定め、日本は基地提供義務を負っているが、米国は自国の政策に基づき米軍を移動させる。

トランプ氏は1期目に「なぜ韓国に米軍がいるのだ」と疑問を投げ掛け、マティス国防長官(当時)が「第3次世界大戦を防ぐために駐留している」と説明した後、「小学5、6年生程度の理解力しかない」と嘆いたという話が内幕本(『FEAR』恐れ)に出てくる。また大統領選に敗北したトランプ氏が「正気を失った」と判断したミリー統合参謀本部議長(当時)が中国軍高官に2回電話をかけ、「我々は攻撃しない」と伝えたことも明らかにしている(『PERIL』危機)より。

第2次政権は茶坊主ばかりとなるだけでなく、上下両院も共和党が多数を締める「トリプルレッド」なのでブレイキ役がない。一対一のディール(取引)を好むトランプ氏は石破首相の持論である「核共有」を持ち出さないと限らない。都合の悪いことに韓国でも大まじめに議論されている。わたしたちは4年間を無事に乗り切れるだろうか。



国務長官に指名されたルビオ上院議員(右)とトランプ氏。(トランプ氏のfacebookより)

はんだしげる・防衛ジャーナリスト。近著に「台湾侵攻に巻き込まれる日本」(あげび書房)。